

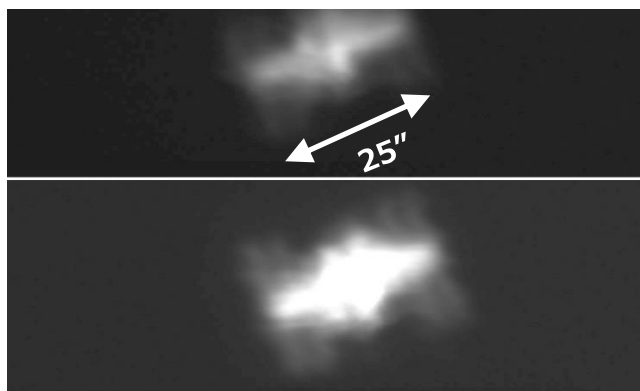
京都大学(岡山 3.8m せいめい望遠鏡 関連)活動報告

2021/3/17 光赤天連総会

2019 年前期から、国立天文台との協力のもとで、共同利用観測を行なっている。

2020 年後期の 7 月から 12 月の共同利用観測は、応募件数 14 件、採択件数 13 件で 69.5 夜（京大時間では 17 課題を採択）だった。

2021 年前期の 1 月から 6 月の共同利用観測は、応募件数 20 件、採択件数 16 件で 81.4 夜（京大時間では 17 課題を採択）である。<http://seimei.nao.ac.jp/openuse/proposalstatistics/> 参照



国際宇宙ステーションの試験撮影
(駆動速度~1 度/秒)



速報画像マーク付き 撮影時刻 18:10 露出時間 300秒 カプセルの動きに合わせて露出線を動かしています。
視野 11' x 6' 画像上が天の北極方向

2020.12.5「おかえりはやぶさ 2 観測キャンペーン」(主催: JAXA はやぶさ 2 プロジェクト、日本惑星協会、日本公開天文台協会)の一環

●**分割主鏡の像:** 1-2 秒角で安定しており、シーイング限界の観測が行なえている(夜間に 2-3 回、シャックハルトマンカメラで調整をすることが望ましい; 通常、GUI で数回のクリックで完了)。2019 後期以降、調整直後の星像は FWHM で 1.0 秒角、高度を大きく変えた後も 2 秒角を達成している。

●**指向精度:** 全天で 10 秒角 rms 程度。

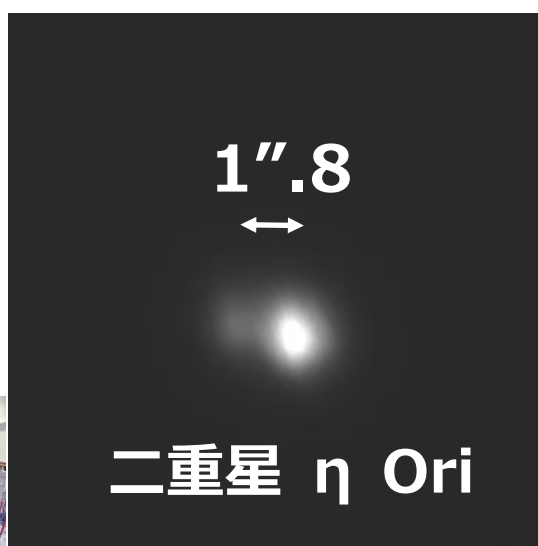
●**観測装置:** 赤ナスミス台の焦点部に KOOLS-IFU 分光器(波長分解能 600-2000)のファイババンドル(マイクロレンズアレイ付きで



天体用として 110 本で視野 8 秒角の四角、背景光用として 7 本)が搭載されている。

2020 年後期から、インストルメントローテータを使用し(それまでは青ナスミス台でイメージローテータを使用)、オフセットガイド(視野が直径 3 分角)を使い観測している。

今後、3 色カメラ TriCCS(2021 年後期から部分的に共同利用に供したい)、GAOES-RV 高分散分光装置などが搭載される予定である。



二重星 η Ori